

うつくしやま だより

学校の教育目標

自立をめざす生徒

～自分を生かし 社会に貢献できる人間になる～

学校だより

R3. 8. 30

山県市立美山中学校

夏休みは充実していましたか？ 私の学生時代は毎年そう聞かれるたびに「あっという間だったなあ」と感じていた気がします。今年の夏休みは、新型コロナウイルス感染症のためにご家族も思うように過ごせなかったことでしょう。岐阜県はとうとう「緊急事態宣言」の指定を受け、感染確認数は連日400人近くまで増えていると発表されています。また、「天気の子」という映画を思い出させるような長く雨が続く日々もありました。全国各地で川の氾濫や土砂災害などがあり、命を落とされ、未だに生活を立て直すのに苦しんでおられる方もいます。ただ、とても辛い日々ですが、現実を見なければこの災難を乗り越えることはできません。藤田医科大学病院の岩田副院長さんがこんなことを話しておられます。「大雨特別警報の時は『皆さん河川に近づかないように』と言わなくても近づかない。それと同じくらいウイルスが街にあふれているが、見えないから行ってしまおう。自分の命の危険と向き合うなんて思わない(若い)世代の方が、生死と向き合わなければいけなかったりする」

見えないものを恐れなければいけないという、この危機的な状況の中では、これまで計画していたことは予定通りにはいきません。修学旅行や宿泊学習、体育大会、合唱祭など、楽しみにしていたいろんな行事を変更したり、中止にしたりしなければなりません。豪雨のように、避難場所や家でじっと黙って過ぎ去るのをがまんするしかない時もあります。ただ、学校生活で仲間と過ごす中では、ただじっとしているだけではなく、この環境の中でできることを精一杯考えたいものです。感染対策をとりながらも、みんなが充実感をもてることや楽しいことを募集します。思いついたら、先生や議員さんを通じて生徒会執行部の子に伝えてくださいね。

見えないものと言えば「人の心」もそうです。コロナ禍でかかるストレスは、人の心を落ち込ませたり、イライラさせたりするでしょう。そんな時、そのイライラをどうしたらよいのでしょうか。がまんするだけでは、もっとストレスは大きくなっていくことでしょう。誰かにぶつけていては、その相手もストレスを重ねてもっと辛くなることでしょうし、ぶつけたあなた自身の心も人を傷つけたストレスを積み重ねていきます。例えば、この夏のオリンピック・パラリンピックが教えてくれたことはありませんでしたか？あるパラアスリートが、インタビューからの「パラリンピックが延期になったことで苦しんだことはありませんでしたか？」という質問にこう答えていました。「私は障がいがあることでこれまでいろんな苦難がありましたし、それを乗り越えて今ここにいます。パラリンピックの延期はそれに比べれば小さな事です」と。進行性の障がいや病気のある方にとっては、時間というものがとても重要だったりもしますので簡単には言えませんが、苦しいときにも自分の心を見つめた人や仲間を支えた人達の強さと優しさに感動しました。そうはいっても、辛い気持ちを口に出すのはとても大切です。グチを言える相手に聞いてもらったり、「自分も同じ気持ちだよ」と言い合ったりできるといいですね。



写真：越智貴雄/カンパシブリス

<保護者の皆様へ>

デルタ株は子どもの世代への感染力も強いという情報を聞かされたときに、お子様の登校についてはご心配が募るばかりかとお察しします。緊張が高まる日々ですが、子どもたちには、学校生活を安心して楽しませてやりたい一心で、できる限り感染リスクを軽減し感染対策をとった活動を進めます。ご協力よろしく願いいたします。